

第3回学校運営協議会

令和8年2月13日（金）午後2時から
徳島県立徳島中央高等学校 大会議室

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 学校長あいさつ
- 4 協議

(1) 令和7年度学校経営方針年度末評価について学校長から説明

夜間・昼間・通信・しらすぎの令和7年度学校経営方針年度末評価について主な内容を説明

(2) 令和7年度学校評価総括評価表に関する学校関係者評価について

【夜間部について】

○「レジリエンス」について、言葉の意味と教育活動にどう生かしているか？

→レジリエンスは、ストレスや逆境、困難な状況に直面した際に、しなやかに適応し、回復する「精神的回復力」や「弾力性」を指す言葉。

人権 HR を一年に3回実施している。年齢層が幅広く、同じ HR をしても経験が違うので取り方が違ったりする。

○生徒の授業満足度について、高い進路目標を持つ一部の生徒が不満を感じることに、どのように対応しているか。

→大学進学をめざす生徒から学力的に厳しい生徒もいる。その中で、一斉授業では難しいが、例えば一番上に書かせてもらっている「マルチ基礎」において、基本的なところから難易度の高い内容まで、鳴門教育大学院生に1クラス2名ずつ入ってもらって、力を借りながら個々の学力に応じた指導を進めている。また、他の授業では、学力があって高度なことがしたい生徒には難しい問題、演習問題を取り入れてカバー出来るようにしているがなかなか難しい。

○本年度のエシカルクッキングにたくさんの夜間部の生徒さんが参加してくれて盛り上がった。参加した保護者が生徒の参加の様子を見て、自分の子どもも連れて来ようかなと思うので、是非今後も参加してほしい。

→PTA 研修会の中で、昨年に引き続きエシカルクッキングを行った。数年前から生徒は参加してくれている。参加した生徒も喜んでいたので、今後も一緒に参加してくれればと思っている。

【昼間部について】

○評価表をみて、ICT 端末が授業で定着してきたことがよくわかった。生徒同士の協働的な取り組みや理解の深化につながっている点はないかという感想を持った。一方で、総合的な探求の時間で意欲的に取り組む生徒の割合が目標に届いていない。テーマ設定や支援体制、評価方法を再点検して学習意欲を引き出すような仕掛けを今後考えて行く必要があるのではないかという感想。避難訓練について、行事化しやすい点を踏まえて平常時の授業場面も含めた抜き打ちの避難訓練とか実効性を高めることを考えて行く必要があると感じた。

→ICT の効果的な活用について、GIGA スクール構想の推進により、かなり浸透してきて、生徒も操作に慣れ、主体的に学習に取り組んでいる。総合的な探求について残念ながら目標に達成していないが、

テーマ設定、それによる再点検をしていきたい。避難訓練は前例踏襲は良くないので、あらゆることを想定するという意味で昨年の第二回の学校運営協議会でもご意見を頂いたところである。それについては検討中で、今年度新たな取り組みとして、通常の流れではなく、津波を想定して、非常階段を使うとか、教室に帰る途中で体育館2階の防災グッズを見学してから教室に帰る、避難場所についても垂直避難等これまでにない方法で実施している。今後も課題が見えてきたり、色んな報道等を受けて、精査して実施していきたい。

【通信制課程について】

○ICT 活用の研修会を複数回実施して、教職員の能力向上を図っている点が評価できる。一方で教員間で活用の質に差が出やすいことが想像される。授業事例の共有や研修の継続、学校全体の底上げをどうするかについて検討していただきたい。特に ICT は苦手意識の高い先生も一定数いらっしゃるの、その一歩を踏み出すきっかけを学校全体で支援していただきたい。学校 HP を随時積極的に更新している点では評価できるかなと思う。この点についてもっと良くしたらいいのではないかという視点なのだが、単なる報告でなく、ねらいやこういう効果があったということもわかりやすく整理して発信することで教育活動の意義がより伝わるのではないかと考える。

→HPをご覧になってくださってありがとうございます。ICT 活用は担当も含め、生徒のみならず、保護者の方々、そして学校に直接関わっていない方も見る機会があるので情報発信は非常に大事と考えています。ご指摘のあった「ねらい」と「成果」なども組み込むことで、その取り組みが生徒の教育にどのようなつながっていくのかが、よりわかりやすくなるように今後発信していければと思っています。

ICT の研修については、内容は本課程の ICT 担当教諭が考えています。PC の操作が苦手な方もいる中で、一緒にやってみよう、楽しみながら取り組んでみようという雰囲気をつくって実施して下さっています。これを使うと便利だというアプリや機能の説明や動画などの情報を発信してくれるので少しずつですが積極的に使用する先生も増えています。また、生成 AI 等を使用することで校務が短縮されることから、その浮いた時間を生徒にしっかり還元していきたいと考えています。

○私立の通信制高校の影響はあるのか、どう認識されているのか

→実際の数値での把握は出来ていません。私たちも情報をつかむよう常にアンテナを高くしています。実際、後期入学の生徒は、私立でなく本校を選んでくれています。また、後期から入ってきて、自学自習の通信制の強みをいかして、しっかり勉強して共通テストを受けた生徒もいます。全員が全員ではないが、私立ではより進学に特化してという学校もあるなかで本校を選んでくれました。前籍校では得られなかった友達もできた生徒もおりますし、生徒に話を聞くと、「来て本当に良かった」「学校は楽しい」「学校生活を実感できた」「安心していられる」と答えてくれました。また「卒業式も出ます」と言ってくれたのは嬉しかったです。

本校の魅力と言え、人（教師陣）だと思います。進学実数だけというのではなく、先生方が生徒一人一人の気持ちに寄り添って、生徒さんのやりたいということや光るものをみつけてくれる先生方ばかりなので、それをきっかけに進路が見つかった生徒もいるし、ここを伸ばそう、学んで楽しいなと思うようにもっていつてくれる、そんな先生方です。保護者の方はどうしても進学数・進学先を気にするかもしれませんが、総合的に社会に出た時、社会で自分がどう動けるかという力をつけるきっかけを育む、先生方がそこを頑張ってください生徒に向き合ってくれている。そこが本校通信制の魅力であり、他の私立の通信制高校との違いです。

○私学がなければ徳島県内の通信教育をめざす方は全員がこの中央高校へ来て頂いていいと思う。通学距離等を考えるとそういう意味では、全員が県立徳島中央高校の魅力の話で少なくとも県立中央高校のほう体制とかいろんな面でバックアップできると思うので、中央高校の通信制の PR、魅力のある学校、スタイルというかこれにまた努力してもらいたい。

→(私立の通信制高校は) 駅前にサテライトとかあったりするが、「県立ではここに中央高校あります」というのを頑張りたいと思っています。私立と公立では金額が全然ちがうということもありますが、公立の先生方はきめ細かな指導をしてくれる。丁寧に一人一人に寄り添った指導、これは本校は自信がありますし、何より、学校らしい、学校の生活が出来る、勉強だけでなく学校行事を含め学校としての生活が出来る。「人を育てる」という意味では私立と違うと思います。大学進学を目指す、それに特化した私立の通信制もありますが、本校は負けていないと思う。それをアピールしてたくさんの生徒さんに来ていただきたいと考えています。

○中学校の校長会など中学校の現場にもしっかり周知し、理解してもらって、中央高校の通信制を勧めていただいたら、と思う。

○どの教育現場でも対応の個別性を大切にしていると思うが、より多種多様な年齢、国籍の方への対応を求められていると思う。業務の簡素化・効率化や先生方の働き方改革は相反するものだと思うが、それに重点を置いて取り組んでいて素晴らしいと思う。先生方の働き方の改革や安定がさらによりよい教育につながるのかなと思うのだが、取り組まれて定時退勤や有給の取得等、具体的に改善されて良かったなと思うところについて。また、研修の内容について、メンタルヘルス的な研修の具体的な内容についてお聞きしたいです。

→働き方改革について、通信制は部活動を放課後に実施していない分、定時で帰りやすい環境にありますが、働き方改革は、やりがい、働きがいというところも大切に、単に数値だけで測れるものではないと思っています。先生方のご負担がないようにと思うからこそメンタルヘルス的なことは大事ななと思っています。通信制で本年度実施したのは、色んな知識的なことも必要かとは思っていますが、先生方が心穏やかで元気であるというところが、実際に生徒と関わる時、一番大事ななと思ったので、今年は、香りのことで全職員で、講師先生をお迎えして研修を実施しました。「香り」というのはリフレッシュの意味でも大事ななと思っておりましたし、先生方の笑い、笑顔があって、何でも言い合える雰囲気大事ななと思いますので、アンガーマネジメントについては、このことを知っていると生徒にもアドバイスできるかと思いましたが、今年度は全課程の研修でアンガーマネジメントを入れていただいたので、うちの通信ではちょっと違ったアプローチで取り組みました。心の豊かさが必要ななと思って実施しました。

【しらすぎ中学校について】

○モンゴル協会の事務局の方(医療関係者)に会ったときに、しらすぎ中学校の情報を提供したら非常に喜んで、一度見学に来たいという話になった。病院関係、介護施設関係、徳島県の国際交流関係に広報をする必要があるのではないかな? 広報の強化をどう図っていくか、外国の人が働く窓口への学校の PR をどうやっていくか。

→いろいろな所で話をしているが、本当に本校の学びを必要とする人に届けるのは難しいと感じている。公益財団法人徳島県国際交流協会(TOPIA)には今年度6回説明に参りました。来年度の新入学生の外国籍の全員が TOPIA を通じて本校を紹介させて頂き、体験入学をして面接が終わったところである。

TOPIA との連携は本年度積極的に行ってきた。本年度は徳島南ロータリークラブでも説明を実施したと

ころ、そこにも医療関係の方がいて、夏休みの説明会に担当指導員が参加してくれた。社会福祉協議会が主催しているグローバルキャリアフェアが四国大学交流プラザで行われた際、企業様の外国籍の方が就職斡旋のために説明を聞きに来られている際にもしらせぎ中学校での学びを外国の方を引き受ける企業様にも本校のことを知って頂きたいということで説明した。ほか約10か所で説明を行っている。

○近くの製作所にも海外からの生徒さんが来ていたと思うが、賛助会委員であるか？

→賛助会員になっている。

○しらせぎ中学校の外国籍の会社従業員のバックアップも漏らさずに当たった方がいいんじゃないかと思う。

→今年の夏にも説明をさせて頂き、ご協力を頂いている。来年度に向けて、生徒さんはいないかとお声かけさせて頂いた、今のところはいないとお返事頂いた。引き続き生徒募集に関してもお願いしている。

○都道府県で初めての公立の夜間中学校ということで、全国から見学や研究者がいらっしやっているということだが、生徒がいる状態での見学が多いのか？

→ほとんどの場合が、学校の概要を説明した後、授業の様子を見学される。今回、北海道の文教の議員の方々は都合で授業見学できなかった。他の来校される方々は、ほぼ授業を見て頂き、その後感想を聞いたり質問をお受けしたりして、午後4時から8時頃まで4時間程度来校して頂いている。

○気になったのが、しらせぎ中学校には外国籍の方も多いが、本来の中学校の年代に学校にうまく通えずに不登校という経験を持たれて、学び直して来られている生徒もいると思う。見学で外から人が入ってくるといことに敏感な方もいるのではないか、そういった生徒に許可をとった形で見学を受け入れているのか？

→事前に来校者があることは1週間前から連絡をしている。生徒の中にも、配慮が必要な方もいるので、その場合は来校者にも説明をして見学をお願いしている。他の方は、必ず教頭が先に中に入って、様子を確認してから、良かったらどうぞということで授業を見てもらっている。今年の場合11団体がすでに見学に来られている。これからもまだ来る予定。生徒が一つの教室で人数の少ない中で3名4名が来られる場合は緊張するので様子を見ながらしている。今後も生徒を第一に、見学に来られる方も配慮して頂いている状況である。

○しらせぎ中学校以外で外国籍の方が日本語を学ぶ施設は他にあるのか

→民間であれば日本語学校がある。穴吹カレッジの中にもあるが、費用がかかる。入校に制約があるので難しい。公的な所ではTOPIAさん、ほぼ毎日午前中日本語教室で勉強する機会がある。社会福祉協議会でも日本語指導ということで運転免許の取得のためということで公的な所でも日本語を指導しているところがある。例えば、東京や北海道では伝統的に自主夜間中学というのが地域がある。徳島では識字学級というはあるが、外国籍の方用の自主夜間中学、そういうのがまだ整ってないということで、本校が学びの拠点として外国籍の方も一緒に学べる場所としてアピールしていきたい。

健祥会学園も日本語学科を作っている健祥会グループは介護施設もあるので介護士で外国籍の方を募っている。

○介護以外の職種はいないのか？

→日本人の働き手がなかなかいないので外国籍担当の方を呼んできて、働きながら日本語を勉強している。

○いろんな場所いろんな会で広報しているという話だが、ここ1年でインターネットやSNSが盛んで、選挙をみても分かるとおり、規制されていたものが一気に開放された状態で、今まではここはダメだろうと思っていたところが全部開放された状態でインターネット、SNSの世界も含めてバンバン出てきてい

